



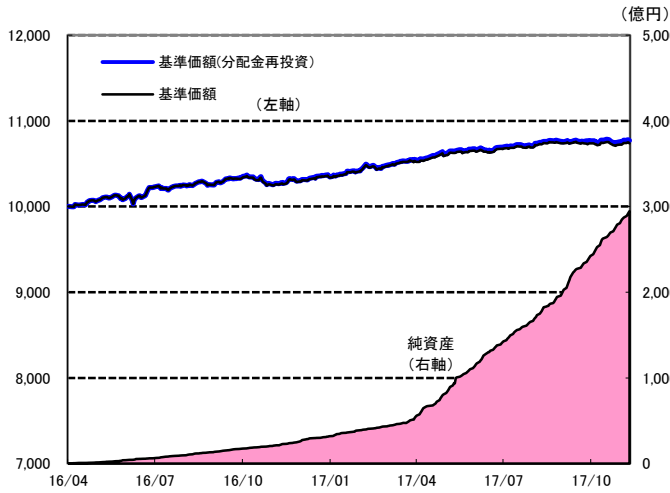
追加型投信/内外/債券

Aコース(為替ヘッジあり 年2回決算型)の運用実績

2017年11月30日 現在

運用実績の推移

(設定日前日=10,000として指数化:日次)



・上記の指数化した基準価額(分配金再投資)の推移および右記の騰落率は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。従って、実際のファンドにおいては、課税条件によって受益者ごとに指数、騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

基準価額※ 10,739 円

※分配金控除後

純資産総額 2,946.2 億円

騰落率

期間	ファンド
1カ月	-0.0%
3カ月	0.1%
6カ月	1.2%
1年	4.8%
3年	-

騰落率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

設定来 7.7% 設定来累計 30 円

設定来= 2016年4月22日 以降

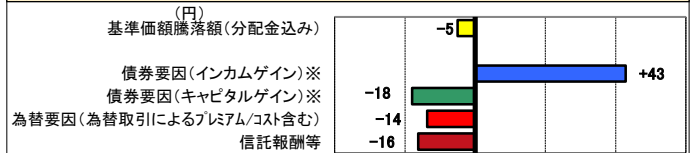
※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。  
※ファンドの分配金は投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

- 信託設定日 2016年4月22日
- 信託期間 2026年4月16日まで
- 決算日 原則4月、10月の各16日 (同日が休業日の場合は翌営業日)

分配金(1万口当たり、課税前)の推移

年月	分配金
2017年10月	10 円
2017年4月	10 円
2016年10月	10 円
-	-
-	-

基準価額変動の要因分解(概算、前月比騰落率)



※投資先外国籍投資信託における為替の寄与を含みます

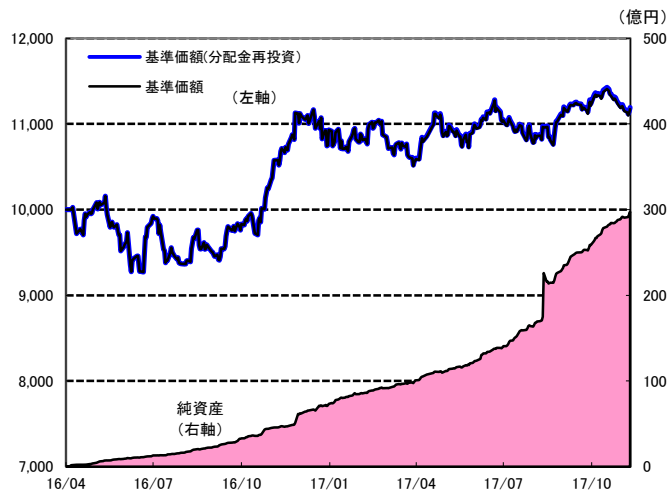
・上記の要因分解は、一定の仮定のもとに最終利回りを用いて委託会社が試算したものであり、直近1カ月の基準価額騰落率の要因を円貨にて表示しております。

Bコース(為替ヘッジなし 年2回決算型)の運用実績

2017年11月30日 現在

運用実績の推移

(設定日前日=10,000として指数化:日次)



・上記の指数化した基準価額(分配金再投資)の推移および右記の騰落率は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。従って、実際のファンドにおいては、課税条件によって受益者ごとに指数、騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

基準価額※ 11,172 円

※分配金控除後

純資産総額 297.6 億円

騰落率

期間	ファンド
1カ月	-1.1%
3カ月	2.0%
6カ月	2.7%
1年	5.8%
3年	-

騰落率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

設定来 11.9% 設定来累計 20 円

設定来= 2016年4月22日 以降

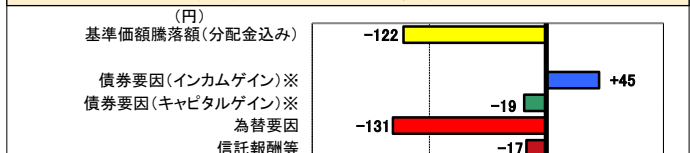
※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。  
※ファンドの分配金は投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

- 信託設定日 2016年4月22日
- 信託期間 2026年4月16日まで
- 決算日 原則4月、10月の各16日 (同日が休業日の場合は翌営業日)

分配金(1万口当たり、課税前)の推移

年月	分配金
2017年10月	10 円
2017年4月	10 円
2016年10月	0 円
-	-
-	-

基準価額変動の要因分解(概算、前月比騰落率)



※投資先外国籍投資信託における為替の寄与を含みます

・上記の要因分解は、一定の仮定のもとに最終利回りを用いて委託会社が試算したものであり、直近1カ月の基準価額騰落率の要因を円貨にて表示しております。

当資料は、外部委託先であるピムコジャパンリミテッドからのデータも使用して作成しております。

ファンドは、流動性のある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえご判断ください。

◆設定・運用は **野村アセットマネジメント**

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号

一般社団法人投資信託協会会員

一般社団法人日本投資顧問業協会会員



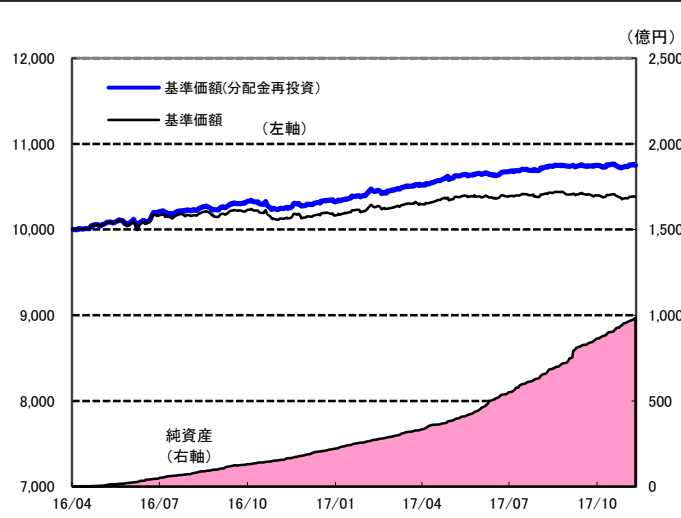
追加型投信/内外/債券

Cコース(為替ヘッジあり 毎月分配型)の運用実績

2017年11月30日 現在

運用実績の推移

(設定日前日=10,000として指数化:日次)



・上記の指数化した基準価額(分配金再投資)の推移および右記の騰落率は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。従って、実際のファンドにおいては、課税条件によって受益者ごとに指数、騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

基準価額※ 10,380 円

※分配金控除後

純資産総額 984.2 億円

騰落率

期間	ファンド
1カ月	-0.0%
3カ月	0.1%
6カ月	1.2%
1年	4.8%
3年	-

騰落率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

設定来	7.5%	設定来累計	360 円
-----	------	-------	-------

設定来= 2016年4月22日 以降

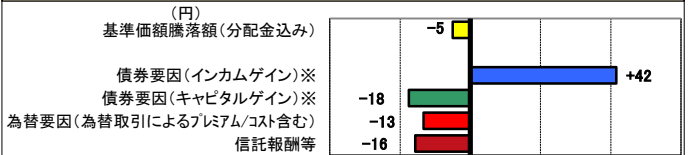
※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。  
※ファンドの分配金は投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

- 信託設定日 2016年4月22日
- 信託期間 2026年4月16日まで
- 決算日 原則、毎月16日  
(同日が休業日の場合は翌営業日)

分配金(1万口当たり、課税前)の推移

年月	分配金
2017年11月	20 円
2017年10月	20 円
2017年9月	20 円
2017年8月	20 円
2017年7月	20 円

基準価額変動の要因分解(概算、前月比騰落率)



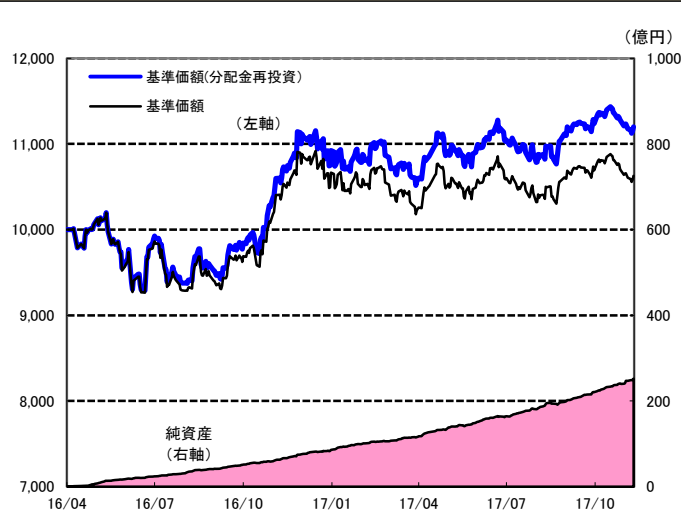
※投資先外国籍投資信託における為替の寄与を含みます  
・上記の要因分解は、一定の仮定のもとに最終利回りを用いて委託会社が試算したものであり、直近1カ月の基準価額騰落率の要因を円貨にて表示しております。

Dコース(為替ヘッジなし 毎月分配型)の運用実績

2017年11月30日 現在

運用実績の推移

(設定日前日=10,000として指数化:日次)



・上記の指数化した基準価額(分配金再投資)の推移および右記の騰落率は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。従って、実際のファンドにおいては、課税条件によって受益者ごとに指数、騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

基準価額※ 10,628 円

※分配金控除後

純資産総額 252.2 億円

騰落率

期間	ファンド
1カ月	-1.1%
3カ月	2.1%
6カ月	2.8%
1年	5.7%
3年	-

騰落率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

設定来	12.0%	設定来累計	540 円
-----	-------	-------	-------

設定来= 2016年4月22日 以降

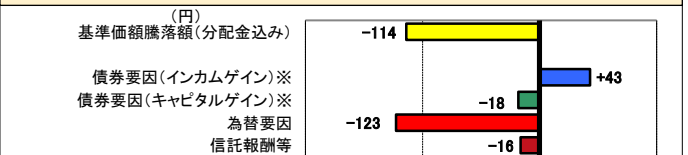
※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。  
※ファンドの分配金は投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

- 信託設定日 2016年4月22日
- 信託期間 2026年4月16日まで
- 決算日 原則、毎月16日  
(同日が休業日の場合は翌営業日)

分配金(1万口当たり、課税前)の推移

年月	分配金
2017年11月	30 円
2017年10月	30 円
2017年9月	30 円
2017年8月	30 円
2017年7月	30 円

基準価額変動の要因分解(概算、前月比騰落率)



※投資先外国籍投資信託における為替の寄与を含みます  
・上記の要因分解は、一定の仮定のもとに最終利回りを用いて委託会社が試算したものであり、直近1カ月の基準価額騰落率の要因を円貨にて表示しております。

当資料は、外部委託先であるピムコジャパンリミテッドからのデータも使用して作成しております。

ファンドは、流動性の証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえご判断ください。

◆ 設定・運用は **野村アセットマネジメント**

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
一般社団法人投資信託協会会員  
一般社団法人日本投資顧問業協会会員



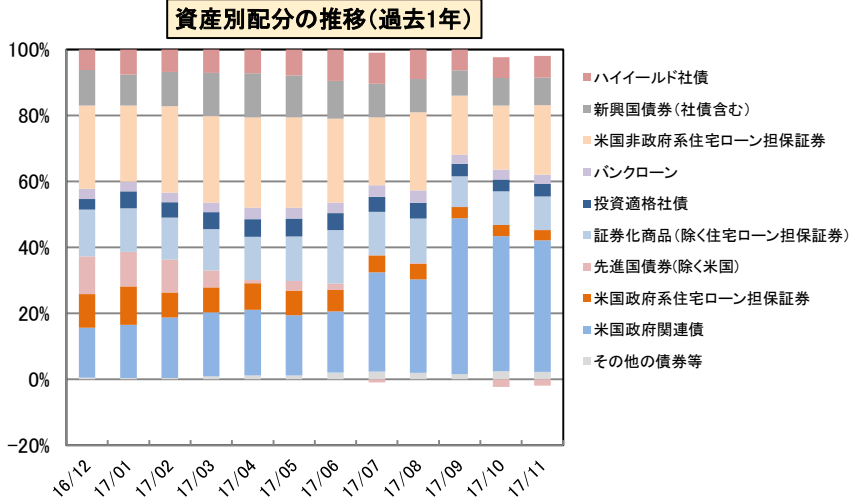
PIMCO パミューダ・インカム・ファンド(M)の資産内容

\* 以下で記載の住宅ローン担保証券はモーゲージ証券の一つです。

資産内容

2017年11月30日 現在

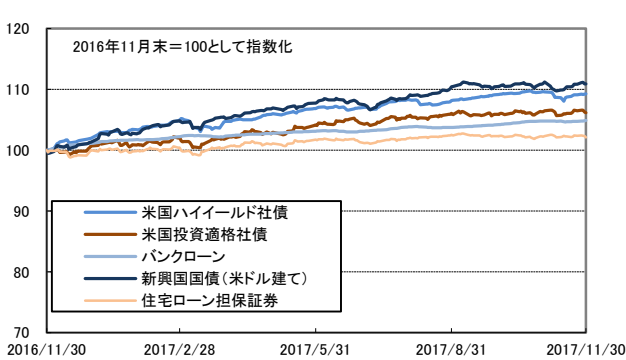
資産別配分	
資産	構成比*
攻めの資産	
ハイイールド社債	6.9%
新興国債券(社債含む)	8.7%
米国非政府系住宅ローン担保証券	21.9%
バンクローン	2.8%
投資適格社債	4.0%
証券化商品(除く住宅ローン担保証券)	10.6%
守りの資産	
先進国債券(除く米国)	-2.0%
米国政府系住宅ローン担保証券	3.3%
米国政府関連債	41.5%
その他の債券等	2.4%
合計	100.0%



※構成比は、債券部分から算出しております。  
当資料は、外部委託先であるピムコジャパンリミテッドからのデータを使用して作成しております。

(ご参考) 資産別パフォーマンスと為替レートの推移

2017年11月30日 現在



資産	月間騰落率 (月末ベース)
米国ハイイールド社債	-0.3%
米国投資適格社債	-0.1%
バンクローン	0.1%
新興国国債(米ドル建て)	0.1%
住宅ローン担保証券	-0.1%

米国ハイイールド社債: BofA・メリルリンチ・USハイイールド・インデックス(米ドルベース)  
 米国投資適格社債: ブルームバーグ・バークレイズ米国総合インデックスのサブインデックス(米ドルベース)  
 バンクローン: S&P/LSTAレバレッジド・ローン・インデックス(米ドルベース)  
 新興国国債(米ドル建て): JPモルガンEMBIG Diversified(米ドルベース)  
 住宅ローン担保証券: ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス(米ドルベース)  
 (出所)ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

- BofA・メリルリンチ・USハイイールド・インデックス(BofA Merrill Lynch US High Yield Index)は、バンクオブアメリカ・メリルリンチが算出する、米国ハイイールド債のパフォーマンスを表す代表的な指数です。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はバンクオブアメリカ・メリルリンチに帰属しております。
- ブルームバーグ・バークレイズ米国総合インデックス、ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス:ブルームバーグは、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーの商標およびサービスマークです。バークレイズは、ライセンスに基づき使用されているバークレイズ・バンク・ビーエルシーの商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社(以下「ブルームバーグ」と総称します。)またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・バークレイズ・インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。
- JPモルガンEMBIG Diversified(JP Morgan Emerging Market Bond Index Global Diversified)は、JP.Morgan Securities LLCが公表している、エマージング・マーケット債を対象としたインデックスであり、その著作権および知的財産権は同社に帰属します。

\*上記は過去のデータであり、将来を示唆あるいは保証するものではありません。また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆設定・運用は 野村アセットマネジメント

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
 一般社団法人投資信託協会会員  
 一般社団法人日本投資顧問業協会会員



PIMCO バミューダ・インカム・ファンド(M)の資産内容と組入上位10銘柄

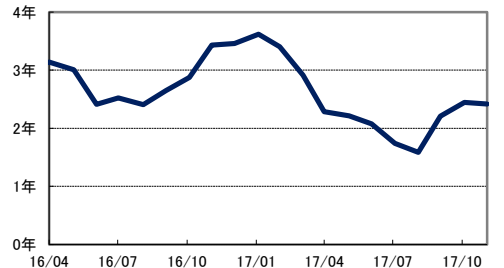
資産内容

2017年11月30日 現在

ポートフォリオ特性値	
平均格付	A-
平均最終利回り(米ドル為替取引後ベース) <sup>※</sup> (課税前)	4.8%
平均デュレーション	2.4年
組入銘柄数	1,720銘柄

・左記のポートフォリオ特性値は、ファンドの組入債券等(現金を含む)の各特性値(最終利回り、デュレーション)を、その組入比率で加重平均したものを、現地通貨建て、また格付の場合は、現金等を除く債券部分について、ランク毎に数値化したものを加重平均しています。  
 ※米ドル建て以外の資産に投資を行なった場合は、投資顧問会社が、原則として当該資産にかかる通貨を売り、米ドルを買う為替取引を行ないます。ただし、総資産の10%以内の範囲で、米ドル建て以外の通貨エクスポージャーを、実質的に保有することができます。  
 ・デュレーション:金利がある一定割合で変動した場合、債券価格がどの程度変化するかを示す指標。  
 ・平均格付とは、基準日時点で投資信託財産が保有している有価証券に係る信用格付を加重平均したものであり、当該投資信託受益証券に係る信用格付ではありません。

平均デュレーションの推移



格付別配分	
格付	構成比 <sup>※</sup>
AAA	59.4%
AA	1.1%
A	-10.3%
BBB	9.1%
BB	12.1%
B	10.5%
CCC以下および無格付	18.0%
合計	100.0%

・格付はS&P社あるいはムーディーズ社のいずれかの格付機関の高い方の格付によります。上記2社より付与されていない銘柄については、フィッチ社またはビムコ社による独自の格付を使用しています。  
 ※構成比は、債券部分から算出しております。

国・地域別配分	
国・地域	構成比 <sup>※</sup>
アメリカ	89.2%
オーストラリア	6.6%
ブラジル	2.9%
イギリス	2.8%
メキシコ	1.8%
その他の国・地域	-3.3%
合計	100.0%

・国・地域は原則発行国・地域で区分しております。  
 ※構成比は、債券部分から算出しております。

通貨別配分	
通貨	純資産比

ロング(買い建て)上位3通貨

米ドル	98.6%
メキシコ・ペソ	1.8%
トルコ・リラ	1.5%

ショート(売り建て)上位3通貨

日本円	-2.4%
豪ドル	-1.9%
ユーロ	-0.0%

ロング(買い建て)合計	104.4%
ショート(売り建て)合計	-4.4%

通貨配分は米ドル100%を基本とし、米ドル以外の通貨の組み入れ合計は、プラスとマイナスそれぞれ純資産総額の10%以内となるよう制限します。

組入上位10銘柄

2017年11月30日 現在

銘柄	資産	国・地域	構成比 <sup>※</sup>
U S TREASURY NOTE	米国政府関連債	アメリカ	5.5%
U S TREASURY NOTE	米国政府関連債	アメリカ	1.4%
U S TREASURY NOTE	米国政府関連債	アメリカ	1.2%
U S TREASURY NOTE	米国政府関連債	アメリカ	1.0%
U S TREASURY NOTE	米国政府関連債	アメリカ	0.9%
FNMA TBA 4.0% DEC 30YR	米国政府系住宅ローン担保証券	アメリカ	0.9%
ENERGY FUTURE/EFIH DIP TL	バンクローン	アメリカ	0.8%
FHLMC TBA GOLD 3.5% JAN 30YR	米国政府系住宅ローン担保証券	アメリカ	0.8%
FHLMC TBA GOLD 3.0% JAN 30YR	米国政府系住宅ローン担保証券	アメリカ	0.7%
U S TREASURY NOTE	米国政府関連債	アメリカ	0.7%
合計			13.6%

・国・地域は原則発行国・地域で区分しております。  
 ※構成比は、債券部分から算出しております。

当資料は、外部委託先であるビムコジャパンリミテッドからのデータを使用して作成しております。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認のうえご自身で判断ください。

◆設定・運用は 野村アセットマネジメント

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
 一般社団法人投資信託協会会員  
 一般社団法人日本投資顧問業協会会員





先月の投資環境

○米国10年国債利回りは、月間で小幅上昇(価格は下落)しました。月初は、次期FRB(米連邦準備制度理事会)議長にパウエル氏が指名される見込みとなり、今後の利上げペースは大きく加速しないとの観測が高まったことなどから、債券利回りは低下(価格は上昇)しました。その後、原油価格の上昇や欧州債券利回りの上昇につれて、米国債券利回りは上昇しました。中旬以降、税制改革をめぐる不透明感やイエレンFRB議長の発言などを受けて債券利回りが低下した局面があったものの、月間では利回りは小幅な上昇にとどまりました。

○米国ハイ・イールド債券市場は、月間で値下がりとなりました。月初、携帯電話大手2社の経営統合交渉が打ち切られたことや、上院共和党の税制改革法案が法人税率の引き下げ時期を1年先送りする内容であると伝わったことなどから、中旬にかけて軟調に推移しました。その後、下院の税制改革法案が可決されたことや、原油価格が堅調な推移となったことなどから上昇しましたが、月間では値下がりとなりました。

○新興国債券市場は、月間で値下がりとなりました。大手格付会社がベネズエラの外貨建て長期国債格付けを引き下げたことなどから、中旬にかけて軟調に推移しました。その後、米国の税制改革が進展するとの期待が高まったことや、OPEC(石油輸出国機構)による協調減産延長に対する期待から原油価格が上昇したことなどを背景に堅調に推移しましたが、月間では値下がりとなりました。

先月の運用経過

(運用実績、分配金は、課税前の数値で表示しております。)

○国ごとの経済状況およびそれに伴う金融政策の方向性の相違を投資テーマと捉え、次のような戦略を実行しています。

○金利戦略については、米国や欧州の金融政策正常化などを背景に、引き続き全体の金利リスク量は抑制しつつ、市場環境に応じて機動的に調整しています。足元では、金利の上昇に対応するために、変動利付債に投資しています。そのほか、中国経済が減速した際に、景気刺激策としての利下げ余地を残す豪州などで金利リスクの取得を継続しています。

○セクター戦略については、米国政府関連債や米国政府系住宅ローン担保証券を組み入れることでポートフォリオの高い安定性を維持しました。米国の景気回復を捉える資産として、住宅市場の回復の恩恵を受けやすい非政府系住宅ローン担保証券や米国の税制改革法案の恩恵を受ける可能性のあるハイ・イールド社債への投資を継続しました。また、相対的に高い利回りなどからブラジルやメキシコなどの新興国債券へも投資をしています。

なお、円金利スワップのショート(売り建て)により、計算上A格の保有比率がマイナスとなりました。

今後の運用方針

(2017年11月30日 現在)

(以下の内容は当資料作成日時点のものであり、予告なく変更する場合があります。)

○今後も主要国経済は米国を中心とした緩やかな回復局面を基本シナリオとしながらも、金融危機前と比較すると経済成長率が低位にとどまる環境の中で、米国の政治動向、先進国における前例のない金融政策からの脱却および拡張的な財政出動への転換、中国の内需主導型経済への移行といった要因が資産価格に及ぼす影響には注意が必要だと考えています。

○運用戦略に関しては、様々な債券市場を投資対象とし着実にインカムゲイン(利子収入)を積み上げると共に、リスクおよびリターン双方に配慮した資産配分を慎重に行ない、安定的な収益の積み上げを目標としています。足元の不確実性を伴う低成長局面では、投資の元本保全を意識しつつ、より魅力的な水準のインカム収入を獲得できるかが重要なテーマになると考えています。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込みの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆設定・運用は **野村アセットマネジメント**

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
一般社団法人投資信託協会会員  
一般社団法人日本投資顧問業協会会員



ファンドの特色

- 「野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド」は、分配頻度、投資する外国投資信託において為替ヘッジの有無の異なる、4本のファンドで構成され、高水準のインカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として運用を行なうことを基本とします。

	為替ヘッジあり(部分ヘッジ(高位))*	為替ヘッジなし
年2回分配	Aコース	Bコース
毎月分配	Cコース	Dコース

※「Aコース」「Cコース」は、投資する「PIMCOパミュダ・インカム・ファンドAークラスN(JPY)」において、原則として、純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同程度程度の米ドル売り円買いの為替取引により、対円での為替ヘッジを行いません。

- 世界各国(新興国を含みます。)の債券等(国債、政府機関債、社債、モーゲージ証券、資産担保証券、ハイ・イールド債券、企業向け貸付債権(バンクローン)等)および派生商品等を実質的な主要投資対象\*とします。

※「実質的な主要投資対象」とは、外国投資信託や「野村マネーポートフォリオ マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。

- 各々以下の円建ての外国投資信託「PIMCOパミュダ・インカム・ファンドA」および国内投資信託「野村マネーポートフォリオ マザーファンド」を投資対象とします。

ファンド	投資対象
Aコース	(外国投資信託)PIMCOパミュダ・インカム・ファンドAークラスN(JPY)
Cコース	(国内投資信託)野村マネーポートフォリオ マザーファンド
Bコース	(外国投資信託)PIMCOパミュダ・インカム・ファンドAークラスN(USD)
Dコース	(国内投資信託)野村マネーポートフォリオ マザーファンド

- 通常の場合においては、「PIMCOパミュダ・インカム・ファンドA」への投資を中心としますが、投資比率には特に制限は設けず、各投資対象ファンドの収益性および流動性ならびにファンドの資金動向等を勘案のうえ決定します。

※通常の場合においては、「PIMCOパミュダ・インカム・ファンドA」への投資比率は、概ね90%以上を目処とします。

■外国投資信託「PIMCOパミュダ・インカム・ファンドAークラスN(JPY)/クラスN(USD)」の運用の基本方針■

※PIMCOパミュダ・インカム・ファンドAをファンドといいます。

- ・ファンドは、PIMCOパミュダ・インカム・ファンド(M)受益証券への投資を通じて、世界各国(新興国を含みます。)の債券等(国債、政府機関債、社債、モーゲージ証券、資産担保証券、ハイ・イールド債券、企業向け貸付債権(バンクローン)等)および派生商品等に実質的に投資を行ない、インカムゲインの最大化と長期的な値上がり益の獲得を目指します。
- ・通常、総資産の65%以上を世界各国(新興国を含みます。)の債券等(国債、政府機関債、社債、モーゲージ証券、資産担保証券、ハイ・イールド債券、企業向け貸付債権(バンクローン)等)および派生商品等に実質的に投資します。
- ・ポートフォリオの平均デュレーションは、原則として0~8年の範囲で調整します。
- ・米ドル建て以外の資産に投資を行なった場合は、投資顧問会社が、原則として当該資産にかかる通貨を売り、米ドルを買う為替取引を行いません。ただし、総資産の10%以内の範囲で、米ドル建て以外の通貨エクスポージャーを、実質的に保有することができます。
- ・クラスN(JPY)は、原則として、純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同程度程度の米ドル売り円買いの為替取引を行いません。クラスN(USD)は、組入資産について、原則として対円で為替ヘッジを行わず、米ドルへの投資効果を追求します。

- ファンドはファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。
- 「野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド」を構成する各ファンド間でスイッチングができます。
- 運用にあたっては、ピムコジャパンリミテッドに、運用の指図に関する権限の一部を委託します。
- 分配の方針

◆Aコース、Bコース

原則、毎年4月および10月の16日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行いません。

分配金額は、分配対象額の範囲内で、原則として利子・配当等収益等および基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。

◆Cコース、Dコース

原則、毎月16日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行いません。

分配金額は、分配対象額の範囲内で、委託会社が決定するものとし、原則として、利子・配当等収益等を中心に分配を行なうことを基本とします。ただし、基準価額水準等によっては、売買益等が中心となる場合があります。なお、市況動向や基準価額水準等によっては、分配金額が大きく変動する場合があります。

\*委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込みの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆設定・運用は **野村アセットマネジメント**

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
一般社団法人投資信託協会会員  
一般社団法人日本投資顧問業協会会員



投資リスク

各ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、債券およびバンクローン等に実質的に投資する効果がありますので、金利変動等による当該債券およびバンクローンの価格下落や、当該債券およびバンクローンの発行体の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替の変動により基準価額が下落することがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

【お申込メモ】

- 信託期間 平成38年4月16日まで(平成28年4月22日設定)
- 決算日および収益分配 「Aコース」「Bコース」  
年2回の決算時(原則、4月および10月の16日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。  
「Cコース」「Dコース」  
年12回の決算時(原則、毎月16日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
- ご購入価額 ご購入申込日の翌営業日の基準価額
- ご購入単位 1万口以上1口単位(当初元本1口=1円)または1万円以上1円単位  
※ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご換金価額 ご換金申込日の翌営業日の基準価額
- スイッチング 「野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド」を構成する各ファンド間でスイッチングが可能です。  
※販売会社によっては、一部または全部のスイッチングのお取扱いを行わない場合があります。
- お申込不可日 販売会社の営業日であっても、申込日当日が、「ニューヨーク証券取引所」の休場日に該当する場合には、原則、ご購入、ご換金、スイッチングのお申込みができません。
- 課税関係 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時(スイッチングを含む)および償還時の譲渡益に対して課税されます。ただし、少額投資非課税制度などを利用した場合には課税されません。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

【当ファンドに係る費用】

◆ご購入時手数料	ご購入価額に3.24%(税抜3.0%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 <スイッチング時> 販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 *詳しくは販売会社にご確認ください。
◆運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に年1.8144%(税抜年1.68%)の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。
◆その他の費用・手数料	組入る有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、ファンドに関する租税等がお客様の保有期間中、その都度かかります。 ※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。
◆信託財産留保額(ご換金時、スイッチングを含む)	ありません。

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に依りて異なりますので、表示することができません。  
※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

【ご留意事項】

- ・投資信託は金融機関の預金と異なり、元本は保証されていません。
- ・登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金制度が適用されません。
- ・投資信託は預金保険の対象ではありません。

<p>ファンドの販売会社、基準価額等については、下記の照会先までお問い合わせください。</p> <p style="text-align: center;"><b>野村アセットマネジメント株式会社</b></p> <p style="text-align: center;">★サポートダイヤル★ 0120-753104 (フリーダイヤル) &lt;受付時間&gt; 営業日の午前9時～午後5時</p> <p style="text-align: center;">★インターネットホームページ★ <a href="http://www.nomura-am.co.jp/">http://www.nomura-am.co.jp/</a></p>	<p>&lt;委託会社&gt; <b>野村アセットマネジメント株式会社</b> [ファンドの運用の指図を行なう者]</p> <p>&lt;受託会社&gt; <b>三菱UFJ信託銀行株式会社</b> [ファンドの財産の保管および管理を行なう者]</p>
--	---

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆設定・運用は **野村アセットマネジメント**

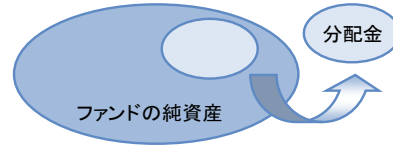
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
一般社団法人投資信託協会会員  
一般社団法人日本投資顧問業協会会員





### 分配金に関する留意点

●分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。



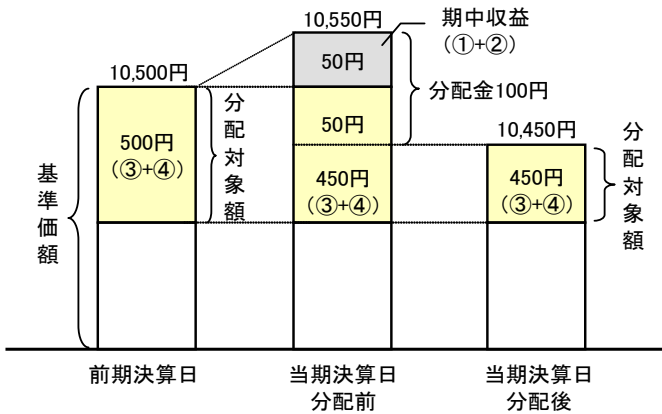
●ファンドは、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて分配を行なう場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。

・計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。

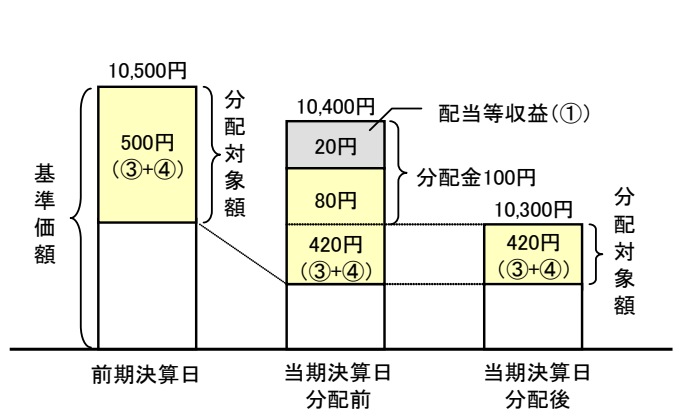
※分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

分配対象額とは、①経費控除後の配当等収益②経費控除後の評価益を含む売買益③分配準備積立金④収益調整金です。

前期決算から基準価額が上昇した場合

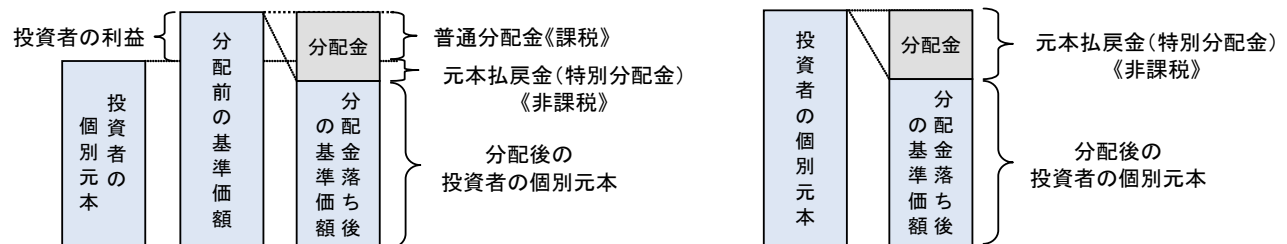


前期決算から基準価額が下落した場合



●投資者の個別元本(追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本)の状況によっては、分配金額の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりりが小さかった場合も同様です。

- ◇普通分配金 … 分配金落ち後の基準価額が投資者の個別元本と同額の場合または投資者の個別元本を上回っている場合には分配金の全額が普通分配金となります。
- ◇元本払戻金 … 分配金落ち後の基準価額が投資者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金(特別分配金) (特別分配金)となります。



※投資者が元本払戻金(特別分配金)を受け取った場合、分配金発生時にその個別元本から元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の投資者の個別元本となります。

(注)普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

※上記はイメージ図であり、実際の分配金額や基準価額について示唆、保証するものではありません。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆設定・運用は **野村アセットマネジメント**

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
一般社団法人投資信託協会会員  
一般社団法人日本投資顧問業協会会員



# 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコース/Bコース/Cコース/Dコース

## お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会				
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	
株式会社みずほ銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第6号	○		○	○
株式会社山形銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第12号	○			
株式会社七十七銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第5号	○		○	
株式会社足利銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第43号	○		○	
株式会社北越銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第48号	○		○	
株式会社山梨中央銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第41号	○			
株式会社八十二銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第49号	○		○	
株式会社三重銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第11号	○			
株式会社百五銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社紀陽銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第8号	○			
株式会社大分銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第1号	○			
株式会社西日本シティ銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第6号	○		○	
株式会社新生銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社あおぞら銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第8号	○		○	
株式会社北洋銀行	登録金融機関	北海道財務局長(登金)第3号	○		○	
株式会社京葉銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第56号	○			
株式会社東京スター銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第579号	○		○	
株式会社みなと銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第22号	○		○	
株式会社宮崎太陽銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第10号	○			
信金中央金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第258号	○			
いちよし証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第24号	○	○		
エース証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第6号	○			
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
木村証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第6号	○			
京銀証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第392号	○			
ぐんぎん証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2938号	○			
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第15号	○		○	
ごうぎん証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第43号	○			
静銀ティーエム証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第10号	○			
七十七証券株式会社	金融商品取引業者	東北財務局長(金商)第37号	○			
めぶき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1771号	○			
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第20号	○			
ちばぎん証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第114号	○			
中銀証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第6号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○		○	○
とうほう証券株式会社	金融商品取引業者	東北財務局長(金商)第36号	○			
西日本シティIT証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長(金商)第75号	○			
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	
野村証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。